2026年4月27日

カナン東京日本語学校
2025年度 自己点検・評価

５：達成している／４：ほぼ達成している／３：どちらともいえない／２：取り組みを検討中／１：改善が必要

１．教育の理念・目標等		評価
１－１	学校の理念・目標や育成する人材像は明確となっているか	5
１－２	学校の理念・目標は全教職員に共有されているか	5
１－３	学校の理念・目標や育成する人材像は社会のニーズに合致しているか	5
１－４	学校の将来構想は策定しているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

１－１、１－３
2025年度は、教育理念の見直しを行った。
建学精神である「世界で活躍できる人材の育成を目指す」を元に、以下のように定めた。

「自ら考え、他者と協働し、新たな価値を創造できる“智者”を育成する。」

この理念は、グローバル化や社会の急速な変化が進む現代において求められる「主体性」「協働性」「創造性」といった資質・能力と一致している。また、多様な背景を持つ人材と共に取り組む力や、新たな価値を生み出す力は、国内外を問わず社会から強く求められているものである。
本校では、この教育理念に基づき、日本語教育を基盤とした対話型・協働型の学習を推進し、日本語能力向上とともに学習者の思考力・表現力・社会的スキルといった”人間力”の育成に取り組んでいる。

１－２
本校の教育理念・目標ならびMVV（ミッション・ビジョン・バリュー）は、全教職員に対して複数の機会と手段を通じて共有している。具体的には、年度初めの全教職員会議、入学式や教員講習等の場において、その意図や背景について説明を行い、理解の促進と行動目標への落とし込みを図っている。
また、常勤教職員に対しては、目標管理シートの作成において、学校理念を踏まえた個人目標の設定、行動指針となるバリューを評価基準とするなど、日常業務と教育理念やMVVとの連動を図っている。これにより、教職員一人ひとりが教育理念やMVVを意識しながら業務に取り組む体制を整備している。

学習者に対しては、入学前からパンフレット等を通じて教育理念を説明し、理念に合致する学生の募集活動を行っている。入学後も全新入生に向けたオリエンテーションの場でそれを学生に伝達をしたり、それぞれ母国語に翻訳された学校手引きに記載をしたりして、学生に向けた周知を絶やさず行い、当校で成長させたい姿を明示している。

１－４
学校の将来構想については、留学を含めたグループ全体事業の中長期計画を定めており、進化をしていく中でより良い環境の提供やより良い教育を目指している。この中長期計画は、現状を鑑みつつ定期的に適切な見直しを行っており、毎年年度初めに開催される全グループ教職員会議においては、前年度の振り返りと新年度の新たな計画や方針について説明、共有を行っている。そのため、全教職員が学校の将来構想を理解した上で、日々教育に従事している。

２．学校運営		評価
２－１	日本語教育機関の告示基準は満たしているか	5
２－２	学校の理念や目標に沿った運営方針や事業計画は策定されているか	5
２－３	組織運営や意思決定システムは整備されているか	5

２－４	人事や賃金、財務管理に関する規定は整備されているか	**5**
２－５	コンプライアンス体制は整備されているか	**5**
２－６	危機管理体制は整備されているか	**5**
２－７	IT化等による業務の効率化は行っているか	**5**

《現状・具体的な取り組み／課題》

２－１
告示基準については、設置代表者・校長を中心に全専任教職員に向けて日本語教育機関の告示基準のレクチャーを行い理解醸成に努めるだけでなく、各部部長が業務において告示基準から逸脱することがないよう部署ごとに日々確認を行っている。

２－２
グループ全体事業の中長期計画を定めているが、全ての事業においては建学精神が基準となっている。
学校内においても、理事長・校長・全部長で構成されるボードメンバーが、建学精神・教育理念に基づいて、学校運営、行動計画を推進している。

２－３
組織については、会議体を整え情報のやり取りに関し抜け漏れがない状態を作っている。加えて、それぞれの部門・チームのリーダーに権限移譲をし、各リーダーが責任を持って各メンバーに指揮を取り、意思疎通を図っている。また、行事においては各部が緊密に連携を取りながら企画・準備・実施を行っており、横のつながり、コミュニケーションの強化に繋がっている。
このような組織の土台を背景に、意思決定においては各部で各職員が自らが積極的に立案、議論し意見形成をした上で責任を持って提案を行い、会議ではボードメンバーによる最終確認が行われるという形が整えられている。しかしながら、緊急時にはトップダウンでの迅速な意思決定、指示を行うなどして、臨機応変に対応している。

２－４
各規定については、全教職員にとってより良いものとなるよう、2025年度にグループ全体で全ての規定・規則の見直しを行い、グループで統一した規定、規則を策定した。また、ChatGPTを利用しチャットボットを作成し、あらゆる規定・規則に対する疑問に対応できる体制を整備した。

２－５
コンプライアンスについては、毎年外部講師を招聘しハラスメント研修、個人情報、情報セキュリティなどの研修を行い、リテラシーの向上に努めている。また、各部部長が業務内容において違反することがないよう部署ごとに日々確認を行っている。

２－６
危機管理体制については、本校独自の「学校危機管理対応マニュアル」を作成・運用しており、当校での対応例を全教職員に共有している。また、年1回の避難訓練では、当マニュアルや災害対策動画（地震編・火災編）を使用し、実際に教室から避難場所へ避難を行っており、その後の反省会の内容を元に常にマニュアルのアップデートを行っている。これ以外にも、外部の公的施設を利用した防災体験を年1回実施しており、そちらでは地震、火事、大雨といった災害体験をし、実際にどう判断し、行動すべきかを学んでいる。そして、情報共有の面においては、災害による休校などの際には、当校のSNSを通じていち早く情報発信を行うこととしており、学生・全教職員にもそのフローを周知している。

２－７
2025年度は、前年度の計画通り、全常勤教職員に向けて外部講師によるICT研修を行い、ChatGPTに関するリテラシーとその効果的な使用法を学んだ。さらには、全常勤教職員にChatGPTの有料アカウントを付与しており、その結果日々業務の中で活用し、実際に業務時間・工程の削減ができている。IT化については、常に業務の効率化を目指し新たなツールなどの導入の検討、推進を積極的に行っている。各教室においては、ICT教育の一環として留学生がPC、スマートフォン、タブレットを使う授業を行っているため、学校内全ての場所において留学生がWi-Fiに接続できる環境を整備している。

３．教育活動		**評価**
３－１	教育理念に沿った教育課程(カリキュラム)は体系的に編成されているか	**4**
３－２	成績評価や進級、修了の判定基準は明確、且つ適切に運用されているか	**5**

３－３	教員の指導力(教育の質)向上のための取り組みは行っているか	**4**
３－４	教育課程(カリキュラム)の改善のための取り組みは行っているか	**4**

《現状・具体的な取り組み／課題》

３－１　教育課程
当校の教育理念である「自ら考え他者と協働し、新たな価値を創造する智者を育てる」ことを目指し、対話を中心とした授業を行っている。 入門→上級へと成長できるように、学習期間を通してのカリキュラム表、学期進度予定表、2週間ごとのスケジュール表という各種の授業計画表を準備し、体系的な指導が行えるようにしている。 日本語力向上と「対話力」「思考力」「社会的スキル」育成に力を注いだカリキュラム編成となっており、十分なインプットを前提としたnarrative作成やディスカッション、プレゼンテーションといった産出活動を中心に据え、大学・大学院・専門学校合格、就職試験突破のみを目標にはしない教育を行っている。尚、JLPT、EJUには日々身につけた学習の成果として臨むものではあるが、試験方策を身につけるという意味での対策授業を直前期を中心に行っている。

３－２　評価
評価に関しては、クラスごとの到達度テストと半年に一度の外部試験を使った熟達度テストを行い、学生の到達度と熟達度の両面から学習力向上に対する評価を行っている。

３－３　教員の指導力向上のための取り組み
教員の指導力向上に関しては、定期的に行われる講師勉強会や、講師相互の授業見学により、教授法や学生との関わりについて積極的に意見交換をしている。加えて、 学期ごとの講師会では、学期末に行う授業アンケートで学生からの声（ニーズ）も取り上げ教師にフィードバックし、指導に反映させている。また、半年に一度の講師研修会のほか、教科書の著者や大学教授などを招いて、当校の教育課程や教え方についての意見交換、勉強会、研修会など を行っている。
課題は非常勤講師の教育力の底上げであり、未経験の教師が登校で全レベル担当できるよう研修に力を入れているが、更なる整備が必要である。

３－４　教育課程の改善
学生の成績の伸び、学生アンケート、授業を担当する教師からの意見を基に、定期的にカリキュラム・シラバスの見直しを 行っている。 年度末には、主教材から副教材までの教材の見直しのためのミーティングを行い、よりよい授業を行うためのカリキュラム・教材の改善を行っている。 今後は日本語教育の参照枠に基づき、学生が主体的・自律性的に学べるような枠組みを確立する必要がある。
全ては学生のために ！

４．学修成果

		評価
４－１	日本語能力向上のための取り組み、把握は適切に行っているか	**5**
４－２	各種試験の合格率或いは成績向上のための指導体制は整っているか	**5**
４－３	進路が決定するまでの指導、把握は適切に行っているか。	**5**

《現状・具体的な取り組み／課題》

４－１　日本語能力向上のための取り組み、把握
毎週末、学生は自らの学習進捗・学習課題を振り返るためにリフレクションを行い教師へ提出、自らの課題発見とその改善に取り組んでいる。担任は提出されたものを利用し学習目標と学習の進捗などについて学期内に少なくとも２回は個別カウンセリングを行う機会を持ちFBを行うとともに、必要に応じたFBを心掛けている。また、各学期末には到達度を測るため、会話・作文という産出能力の試験を含む期末試験を実施、四技能から学習者の日本語力を把握できるようになっている。学期内の適時のカウンセリングに加え、学期末には3か月の振り返りと今後の目標設定を行っている。また、半年に一度、熟達度を測るために外部試験を行い、到達度と熟達度の面から日本語力を把握している。以上のように日々の学習課題の取り組みや毎週のリフレクション、学期末の試験とカウンセリングを通じて自らの日本語力に向き合い、学生が自律的に学習することで日本語力が向上するように取り組んでいる。

４－２　成績向上のための指導体制
毎週のリフレクション⇒学期内の教師FB⇒期末試験（左記に加え、半年に一度の外部試験）⇒学習プランシートを 使った担任による1対1での学期末カウンセリングを実施(通訳を入れることもある)。
上記の体制以外に、学習面で課題を抱えている学生に対してクラスの教師が学期期間中に個人面談を実施している(通訳を入れることもある)。
また、各種試験に対応できるよう試験直前期を中心に対策授業を実施し、自宅学習のためのツール（問題集、アプリ）を紹介している。

４－３　卒業が決定するまでの指導体制、把握
カウンセリングによる希望進路・分野の把握⇒内部説明会による進学事情のレクチャー⇒外部主催の進学説明会参加⇒志望校選定⇒（オープンキャンパス参加）⇒出願書類準備⇒志望理由書作成⇒面接・試験対策などの一連の流れを指導し、学生ごとに個別サポートしている。 面談内容は、面談記録シートに記入し、進捗は毎週の教務部MTGで確認している。問題等あった場合は担当教員だけ でなく、学生部も含め学校全体でフォローを行っている。

５．生徒支援

		評価
５－１	学習や生活等の相談に対する支援体制は整備されているか	5
５－２	学生の身心の管理、事故、怪我等が起きた際の体制は整っているか	5
５－３	日本での生活の指導や支援、犯罪に係る防止教育は行っているか	5
５－４	防災や緊急時における体制が整備されているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

５－１
本校では、担任教員を中心とした相談体制を整備しており、学習面および生活面の双方について日常的に相談を受け付けている。必要に応じて個別面談を実施し、学生一人ひとりの状況に応じた指導と支援を行っている。また、学生部職員とも連携し、在留資格や生活上の手続き等についても安心サポートを行っている。

５－２
学生の健康管理については、年に一回の健康診断、日常の出欠確認や体調把握を通じて継続的に行っている。体調不良や事故、怪我が発生した場合には、速やかに医療機関への受診を促すとともに、必要に応じて職員が同行するなどの対応を行っている。また、緊急時には保護者や関係機関への連絡体制も整備している。その他にも、年３回の学生向け長期休みの注意説明会を通じて、出席率、アルバイト、自転車交通ルール、生活マナーなどをテーマとして、しっかりと学生に指導している。

５－３
入学時オリエンテーションや定期的な指導の中で、母国語を話せる職員が通訳に入って日本での生活ルールやマナーについて指導を行っている。また、犯罪防止の観点からも、トラブル事例を用いた注意喚起や指導を実施している。

５－４
年の2回の防災訓練で災害時に備えた避難経路の周知および避難訓練を実施している。校内には必要な防災設備を整備し、緊急時には教職員が連携して学生の安全確保にあたる体制を構築している。また、地震や火災等の発生時に備えたマニュアルを整備し、迅速かつ適切に対応できるよう努めている。

６．教育環境

		評価
６－１	学校の施設・設備が十分且つ安全に整備されているか	5
６－２	実際に使用している教材は適切であるか	5
６－３	学習効率を図るための環境整備はなされているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

６－１　施設・設備の整備
毎日放課後に校舎の見回りをし、金曜日の夕方には職員全員で校舎内の清掃・点検を行い、施設・設備に破損、不備などがあった際には、新品への買い替え・改修・ クリーニング等必要に応じて対応している、また、備品が継続的に使用できるよう、教職員・学生へ常に使用方法 について注意喚起をおこなっている。 保健関係では保健室を備え薬等も設置している。

６－２　教材の選定
教材については、複数ある候補の中から、弊校の教育理念に最適な教材を、学籍の国籍によるニーズも考慮しながら選別し使用している。成績が伸び悩むクラスに関しては、より段階的に力をつけられるような教材を取り入れ、ときには補習を行うなどの対応をおこなっている。

６－３　学習環境の整備
学生には必要に応じ、PC等の機器を貸し出し、学習の用途にかぎりいつでも利用ができるようにしており、また自主学習ができるスペースとして自習室を設置、受付前の空間も解放している。

７．入学者の募集

		評価
７－１	入学者の募集活動、入学選考は適正に行っているか	5
７－２	募集活動の際に学校情報は正確に伝えられているか	5
７－３	授業料は適切であるか	5
７－４	定員数に応じた募集活動は行っているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

７－１
入学者の募集活動および選考については、留学希望者全員に対してオンライン面談を実施し、公平かつ適正に選抜を行っている。また、2025年度は出張時に一部現地での対面面談も実施し、多面的な選考を行った。

７－２
2025年度の募集活動においては、オンラインおよび留学フェアで、仲介機関や留学希望者に対して十分な時間を確保し、学校情報を正確に説明している。

７－３
本校の授業料は、教育内容、教員体制、施設設備および学生支援体制を総合的に勘案したうえで設定しており、適切な水準であると判断している。また、募集要項やパンフレット等により金額を明確に提示し、入学希望者に対して事前に十分な説明を行っている。さらに、授業料以外に必要となる費用についても併せて説明し、透明性の確保に努めている。

７－４
さらに、学生在籍人数や教員数は定期的な会議で確認し、定員数を踏まえた上で、施設規模を超えない適切な人数での募集を徹底している。

８．財務

		評価
８－１	中長期的に財務基盤は安定しているか	5
８－２	予算・収支計画は有効且つ妥当なものとなっているか	5

８－３	財務について、会計監査は適切に行っているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

８－１
コロナ前の水準を安定的に維持しつつ、学生数の増加に伴う収支拡大にも適切に対応し、財務基盤は引き続き健全に推移している。2024年度に引き続きコスト管理を徹底し、無駄の削減と効率化を全教職員で共有しながら運営を行うことができている。

８－２
予算・収支計画については、毎年、ボードメンバーが中心となり学校全体の収支予算を設定している。過去データの分析に加え、市場環境や留学生動向を踏まえた中期的視点での検討を行い、より実効性の高い計画策定を実施している。ボードメンバーによる最終判断プロセスも機能しており、適切な意思決定体制が維持されている。また、新規プロジェクトや事業展開については、従来以上に投資対効果を意識した精査を行い、成長が見込める分野への重点的な資源配分を実施している。短期的な収益だけでなく、中長期的な学校の発展に資する投資判断を行う体制が整ってきている。

８－３
学校の収入・支出、予算については、学校内において複数人体制で決められたルールに基づき厳格に管理を行っている。これに加え、会計監査として顧問税理士が入り、毎月収入、支出の用途確認、不正やミスがないかを第三者の目線で適切にチェックを行っている。

今後は、収益構造の多様化および外部環境変化への耐性強化を意識し、より安定かつ持続可能な財務運営を目指していく。

９．法令遵守

		評価
９－１	各種法令等の遵守と、適切な運営はされているか	5
９－２	個人情報の保護の取り組みは行っているか	5
９－３	自己点検・評価を実施・改善は行っているか	5
９－４	自己点検・評価の公開は行っているか	5
９－５	関係省庁への届出、報告を遅滞なく行っているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

９－１
当校は法務省告示校として、法令・設置基準を満たしており、「適正校(class1)」としての認定を今年も受けている。

９－２
個人情報保護については、個人情報保護方針（プライバシーポリシー）に基づき、社内規程を整備・運用している。全ての個人情報を台帳で管理するとともに、アクセス権限を最小限に制限している。

９－３、９－４
自己点検・評価については、毎年年度末に学校の部長職以上のメンバーで見直しの実施と改善を行っている。その結果は、ホームページ上でも情報の公開を行っている。

９－５
関係省庁への届け出については、年度内のスケジュールに対してスケジューラーによる管理を行っていると共に、担当者による社内報告も行っており遅滞なく実施できている。
今後も教育サービス自体の更なる質向上・サービス提供環境の改善活動を継続し、健全な学校運営維持に努める所存である。

１０．地域貢献・社会貢献

		評価
１０－１	学校の資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献は行っているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

１０－１
昨年度に続き、江東区や地域のボランティア団体との定期的な協議を基盤とし、地域共生社会の実現に向けた活動を深化させている。
具体的には、①「江東区民まつり」への参加を定例化し、地域住民との接点を強化した。特に「やさしい日本語」の普及活動では、単なる紹介に留まらず、地域住民が留学生と直接対話するワークショップ形式を導入し、相互理解の質を向上させた。②亀戸の小学校から6年生を受け入れ、留学生との交流会を行った。今後はより積極的に地域貢献、地域理解を深めるために、地域の方々との交流を予定している。
施設活用においても、週末の「継承中国語クラス」への教室提供を継続しつつ、平日の地域住民向け日本語授業では、対象を就学前児童の保護者や高齢者まで広げ、孤立防止とコミュニティ形成に寄与している。25年度は地域住民向け日本語授業に参加している方々の交流のためのイベントを3か月ごとに行うなど昨年度に比べ進化させることができた。今後は、これら施設利用者が学校イベントに参画する仕組みを構築し、一方的な支援ではない「双方向の交流」へと発展させていきたい。

１０－２
学生に対するボランティア活動の奨励・支援については、25年度も十分とは言えない。昨年同様、地震や台風などの災害にからの復興に対してボランティアを行うという非日常におけるボランティアでなく、日々の生活の中で自発的に行うことができるボランティアから始めることを考えている。学校として企画立案したものとしては、授業の中に「亀戸マップを作る」という探求授業を入れ、授業を通じて「地域社会の一員である」という意識の醸成を行える取り組みを行った。今後は実践を継続し、地域社会の一員であるという意識を持ってもらえるようにしていく。

《総括》

2025年度は、学校目標をより具現化するため、教育理念を「自ら考え、他者と協働し、新たな価値を創造できる“智者”を育成する」へと刷新し、名実ともに新たなステージへと踏み出した一年であった。自己点検・自己評価の10項目に基づき、全教職員が一丸となって取り組んだ成果を以下の通り総括する。

■ 2025年度の成果と進展
昨年度の課題であった「財務」および「地域貢献・社会貢献」において、大きな進展が見られた。財務面では、コスト管理の徹底に加え、成長分野への重点的な投資判断を行う体制が整い、健全かつ持続可能な基盤を確立した。地域貢献においては、従来の施設提供に加え、地元の小学校との交流会や住民向けワークショップを実施するなど、地域社会との「双方向の交流」へと進化させることができた。
また、IT化による業務効率化も貴重な成果である。全正社員への生成AI（ChatGPT）有料アカウント付与とリテラシー研修を通じ、教職員の業務負担軽減と教育の質向上を同時に実現した。これにより、教職員が学生一人ひとりのニーズにより深く向き合える時間を創出したことは、「最適な環境作り」への大きな一歩となった。

■ 今後の課題と展望
教育活動においては、対話型・協働型授業の質は向上しているものの、非常勤講師を含めた指導力の更なる底上げが継続的な課題である。また、学生によるボランティア活動への参画については、地域探究授業の導入などで意識醸成は進んだが、自発的な行動支援という点では依然として発展の余地がある。次年度は、刷新した理念を軸に、学生が「地域社会の一員」としてより主体的に行動できる仕組み作りを推進する。
また、グループ全体においては、ブランディングの一環として、それぞれの学校を見つめ直した上で、新たにミッション、ビジョン、バリュー、タグラインを定め、ロゴやビジュアルの刷新を行った。次年度は、これらの浸透を図るべく、インナーブランディングの強化を図る。

■ 結びに
2025年度の取り組みを通じて、当校の独自価値は一層強固なものとなった。今後も、学生一人ひとりの「人生のプランニング」を支える教育の質を追求し、地域社会からも信頼され、選ばれ続ける「東京都を代表する日本語学校」としての地位を確立すべく、全力を尽くしていく。